

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄問題等懇談会

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): 沖縄問題等懇談会, 議事録, 中間報告 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43773

第一回

(昭

42

.

12

.

27

)

事務次官

近藤外務審議官

官房長

北米局長

参事官

北米課長

三浦田

3中6週内問題懇談会委員会の開催

の開催について

42.12.20
半 比

(外理)

特設局の総務課長より北米課まで電話越し
標記の委員会開催の次のとおり開催される

る旨及び外務大臣の印出席を仰ぐことには
思ふが、代りに事務次官の印出席を希望したい旨

OK

依頼があった。事務次官及び大塚存存官
出席の

日時 12月27日(水) 正午より約2時内

場所 総理官邸(案未決定)

議題 小委員会の今後の進め方(運営)について

出席者 大塚 久遠 小林 武見 林

政府側 官房長官、総理府総務課長 ほか

別添 /

沖繩基地問題研究会（第一回）議事要録

会場・赤坂プリンスホテル

とき・二月十七日 一〇、三〇～一三、四五

出席者・木村、大浜、久住、林、永井、若泉、小谷、

岸田、三好、小宮山、末次の各氏

会議の概要

定刻よりややおくれで末次委員の進行により開会。はじめに大浜氏よりこの会合がもたれるに至った経緯などにふれて、「昨秋の日米共同声明により、沖縄問題は当面一体化政策がすすめられるが、明年は佐藤首相が再び訪米して施政権返還の協議が行われるであろう。その際には、施政権返還後の基地の在り方をどうするかが焦点となるであろうから、今からその方面の権威ある人々の協力を得て成案を検討し、佐藤首相の肚構への参考にしたいと考えて相談したところ、首相もこれに賛同されたので、この会合をもつに至った次第……」とのあいさつがあり、

この会合をとりあえず非公式のものとしたのは、その方が自由に検討ができると考えたからであるが、

実質的には「沖懸」の一環としてやつていきたい。

別添 /

- 2 従つて、政府では木村官房長官と緊密な連絡をとりつゝ今後の運営をはかつていきたい。
- 3 この会の運営にあつては、久住委員を座長としてすゝめて頂きたい。
- 4 政府及び各委員との連絡などの諸事務は、末次委員に担当してもらい、事務的には南撥がこれに協力することにした。

との提案があり、了承された。

つゞいて久住委員から、「沖繩の委員になつている関係から、この会の進行をさせて頂くが皆さまの御協力を得たい。昨秋の首相訪米では軍事問題は中心ではなかつたが、これからは基地問題をどうするかということが重要となる。従つて皆さんとともに、真剣に、しかも中広く検討をすすめていきたい。しかし余り急いで結論を求めるとはなく、長い目で、忍耐よく討議していきたい」とのあいさつが行われた。

- 1 つゞいて、去る一月沖繩を訪問してきた大浜氏から最近の沖繩情勢について報告が行われたがその要旨は、
1 昨年の共同声明に対し、沖繩の野党勢力は本土の野党と同じく、反政府的な受けとり方をしているので、自分としてはあらゆる機会に、これを素直にうけとるようにと呼びかけ、反米ムードは問題解決に逆効果であることを力説してきたが、その後の動きは新聞で報せられているほど華々しくはなく、次第に堅実になつていけるだろう。
- 2 十一月の主席及び立法院選挙では、野党側は野党連合でのぞもうとしているが、とくに野党第一党たる社大党幹部とは、返還問題についてはもつと穩健な態度をとるよう要請したが、党内事情を考慮すると実際には無理であろう。

3 立法院選挙については、現在与野党の関係が十八対十四であるが、与党はこれを二十二名にのぼすことを目ざしている。しかし二十名程度はいけるのではないかと感じる。

4 問題は首席公選であるが、保守側からは松岡（現主席）、稲嶺（琉石社長）、西銘（那覇市長）があるが、松岡氏は現主席でもあり個人的魅力もあるが、他の二人では野党連合には無理ではないかと観測されている。しかし松岡氏は立候補しないといつてゐる。

野党側は、屋良教職員会長を推す可能性が強く、本人は強く辞退するであろうが、結局はうけることになるのではあるまいか。かくして情勢は複雑となつてきている。

5 本土の政治家、ジャーナリストの沖繩評価は、沖繩の人の真情を正しく伝えていないのではないか。かなりズレがある。

たしかに沖繩の基地は重要な部分をとつているが、地代、軍用地料その他軍に依存する金銭的なものは大きい。また高校生も復帰運動に動いているというが、毎年五十人ぐらいの本國留學があり、また文部省の國費二百五十人採用の特権もあるし、さらに入學試験も一層むづかしくなるといふ不安もある。つまり表面では祖國復帰を願いつゝ、内面では疑念と複雑さが同居している。

6 要するに十一月の選挙が一つの焦点となるが、与党側に自信なく、とくに主席は人の問題とならう。結果的には野党にとられることがあるかも知れないが、沖繩問題にとっては、さほど重要ではあるまい。米側としても、社大党にかつたとしても大したことはないと思つてゐるように見受けられた。

以上の報告のあと、木村官房長官も賛席して協議に入った。

L氏 昨年の十月、ジョシソン大使宅で夕食会が開かれた席上、大使が来年二月には沖縄問題で新聞のトップを飾ることになると話していたが、その時点ですでにアメリカ側の主席公選に対する方針はきまっていたわけだ。

B氏 外務省の東郷局長が行った時も、余りはつきりとはいわなかったが、米側はそれとなく匂わしていたらしい。

D氏 日本政府や琉球政府には内通せず、時折りはめかしたり、匂わせたりするのは、アメリカ側のクセのようだ。

F氏 いま沖縄の政情など説明してもらったが、それでは沖縄基地問題を検討するこの会合も今後長期的にとりくみ忍耐強く続けていきたいが、さきほどの中間的まどめの提案もありましたので再度お話しねがいたい。

L氏 総理は来年訪米なさることであるが、佐藤首相の三選や米の大統領選もあるので、中間的にまどめる必要があるかと思う。例えば十月に第一回の中間的まどめをすることも考えられ、さらに何回かに分けてまどめるという方法もあるかと思う。

B氏 総理が来年大統領選挙後に訪米することは昨年の日米会談前から一応考えていたことだが、返還問題について総理はさらに確信を得、両三年間にメドがつくと大胆にいっておられる。さきほど外務省の牛場

発言で「ベトナムとのつながりもあり、仮に両三年にメドがつかなくても両四年云々」というのがあつたが、これは官談の発言であつて、そういうことにかかわりなく総理は来年訪米の予定である。もちろんまだ決定ではないが、したがって沖縄問題についてはその都度総理に吸収していただきたいと思うのでこの会合の成果に期待している。

まず沖縄基地の問題については現状では全く白紙状態である。だが、白紙状態ではすまされなくなる。第一に何故白紙かということ。またその理由づけをどの時点でいわなければならぬか。この二つが緊急な重要問題と思つている。したがって近い時期に「どうして白紙か」ということを国会で言わざるを得ない。今のところこの白紙ということについての説得力がなくて困惑しているので皆さんの意見をききたい。また、ここで十月までに中間的まどめができれば有難いと思う。

F氏 今のお話のように、軍事基地の在り方をどうするかということについて、これを具体的にまどめ政府の御参考に供するという方向に進めたい。それを達成するためにはあせらずに、国会の動きや政治情勢などをみながら、十月ごろまでに中間的まどめをしたいと思う。それ迄に毎月一回、基本的に話し合い、ベトナム、朝鮮問題なども充分に考慮しつつ、総合的に検討してまどめてみたい。そのためには必要に応じて政府からも適当な資料をいただきたい。

R氏 この会合のことについてはどうせ知られようが、討論の内容は外部に出さないことにしたい。また将来世論に対しての働きかけを考慮し、ある見解がまどまつたら公表するといふ余地を残しておくことも必要と思われる。さらにこの会合の性格を考えた場合、将来米側の民間専門家と話し合いをやることも考慮さ

れよう。

L氏 総理の言明しておられる白紙ということは、実は非常に頼の広いもので右から左まで含まれるが、総理は米側のいう通りになるということでは駄目である。

Q氏 沖繩問題について米側はまず第一に自分の領土だと思ひ込んでいる。つぎに沖繩で三万五千の米兵の血を流したということ、さらに三番目はベトナム情勢が非常に悪い。以上の三点から米側は沖繩を簡単には返さない。返すときには大きな責任を日本に負わせる。というようなことを昨年あるところで述べたが、今でもそう思っている。

L氏 しかし逆の意見も考えられる。総理も白紙と言っておられるが、米側もある意味で白紙といえる。しがつて米側の希望もあるわけだが、それは日本側の出方によるものと思う。その意味で白紙には筋がある。例えばアメリカは沖繩から出ていけと日本側がいつた場合、米側はハイといつて素直に出て行くという場合もあるし、逆にアメリカ側が退えたくないという全く逆の立場もあり、白紙はその意味で斬を持つてゐるわけだが、だからといつて米側に近づかねばならないということではない。ラインヤター氏が昨年の会議で述べていたことだが、日本が米側に協力しないとすればアメリカはアジアに関心を失うことになるということだつた。そういう考え方もある。

B氏 日米会談で総理と一緒に総理の顔つきが並々ならぬものがあつたのはたしかだつた。総理は沖繩を返すかどうかその措置を誤れば大変ですよ。とつめよつたが、それで国務省は大変あわてた。米側はベトナム戦の失敗や孤立主義が一・二年先か、または三・四年先に異変になりはしないかということ

だが、日米会談を接してみて、半信前までは米側はそういう予感はしていなかつたと思う。

Q氏 結局米側をおどす以外にない。まず第一に朝鮮戦争(停戦)での失敗、北ベトナム失敗、また朝鮮問題と手いづばいだし、同じことをくり返すとベトナム、次は沖繩に火がつき、比島、日本だとおどすことだと思ふ。大統領選挙もジョンソンとニクソンの対戦と予想されるが、ニクソンがなつたら防衛上も大変になると思われる。

B氏 沖繩基地とアジア全体の戦略的關係があり、その位置づけをアプローチしてもらい、日米安全保障の質的变化についての意見も聞かせてほしい。

F氏 いまのお話しもあるので、次回はアジア問題と沖繩基地を結びつけた問題を討議、検討したい。

L氏 それもよいが、その前に検討すべき問題の全貌をまず整理して見る必要があるのではないか。その上で、各論を捉えるべきで、そのときにはアジア地域の軍備コントロールの可能性とその問題点を同時に出してはどうかと思ふ。

N氏 ところで総理の「白紙政策」というのはサスペンスの一つの行き方としてよいかと思ふ。しかしこれが今後単なる思いつきで態度を出すようになると收拾のつかぬ混乱を招くおそれがある。

P氏 沖繩の基地問題は、ベトナム情勢よりもむしろ朝鮮とのつながりを考えるべきではないかと思ふ。さらにこれと日本の防衛との関連など現実問題として検討した方がよいかと思ふ。

B氏 さきにもお話しした沖繩基地についての「白紙の理由」の説得力と「立法院代表がB5問題で東京する」の二つの緊急な問題があるので、この二点についてさらに意見をうかがいたい。

W氏 日本は安全と極東の安全とは本質的に違ふと思う。したがってB52問題に対する態度も違つてくるのではないか。立法院や村議会などでもB52撤去を決議しているようで、日本政府としても強い形で申出てきないものか、B52が飛立つという基地の現象面から施政権は返さねばならないという考えを植へつておく必要があるのではないか。

P氏 B2の沖繩飛来は恒久的なものとは思わない。朝鮮問題など客観的情勢からでてきたとの感が深い。

F氏 仄聞するところによると、米はB52保有機五十機を七十機にふやしたという。また、沖繩飛来は大統領の指示でなく、内部のコントロールによるものではないか、つまり北方をにらみながら南をおさえるという風な。白紙の問題だが、これは高級な政策と思う。ベトナムの問題でも相手をゆさぶるということがあり、準備とゆさぶりで相手の動きをみて対処するという構え、沖繩返還にしても実現のためにあらゆる態度で慎重にのぞむということが大事ではなからうか。

D氏 白紙の問題については、まずほんとに白紙かということと対米折衝に支障をきたすかという二つの問題があると思う。前者については私の感覚では希望的なイメージを持つている。これから国会で煮つめる、その意味では固まつていないわけだ。ことに最近の情勢は流動的なので、その線で白紙ということになる。後者については問題提議が二つあると思う。労働組合の団交とは違ふわけだし、日本を守るといふ利害関係があるのだから、今から核持込み云々をするのはまずいのじゃないか。

N氏 沖繩と防衛問題を白紙であるかどうかとどう説明しても国会では通らないんじゃないか。したがってナショナルリズムを基盤的なものとするのが政治的には大きくなるのではなからうか。

Q氏 白紙ということについては、国民の印象としては、政府は無策だ、これでは頼りないというイメージしか与えない。

M氏 白紙とは莫然としたもので問題を与えない。たしかに高度なものではあるが扱ひ方によつて問題がくずれる。例えばドゴールのアルジェの問題だが、国民をサスペンスの状態におき、その推測をみながら世論をつくるという方法をとつている。白紙を受身にするとは失敗する。したがって白紙の内容については世界的な規模をもち対外的に海気味の悪い泊真力を持つということではなからうか。

O氏 白紙については、大衆へのイメージとしては外交上のフリーハンドをもつとのニュアンスが強い。したがって利害得失を考えた選択書をいくつか準備するということが必要ではないか。沖繩基地の取扱ひについては軍事戦略上または政治的判断も必要だし、さらに米側にも対応し得る代案を考えるべきだ。その場合、あくまでも沖繩の早期返還を図るといふ大前提に立ち、核問題も何時までも白紙では困るので、沖繩でも核政策を含めて検討を進めるといふことではないだろうか。

B氏 果してそこまで踏み切れるかどうか問題である。

B氏 何のための白紙かということになり施政権返還が先か基地が先か、極東の情勢、米の立場などから豫相は甚だ複雑になつてくる。

B氏 もちろん早期返還が第一で、その場合極東の安全との調和を考へるときいきおい核が問題となつてくる。政府としては従来核三原則ではつきりしているが、沖繩の場合にどうするか、したがってどう説得するかが問題となる。

Q氏 それは沖縄住民の考え、つまり沖縄の世論の船越に従うということ一本で強力に推進することが得策
と思う。これまで沖縄を犠牲にし申訳ない。返還に伴うすべての負担は本土が背負う。したがって国民の
重視、増税は当然国民が責任を持つ。 という一本にしぼることが第一義的だと思ふ。したがって核か返
還かということになると、本土国民の姿勢に対して沖縄の世論もギリギリの線を決すると思ふ。その世論
を背負とした大衆運動を米に向けるということではあるまいか。

B氏 以上意見を聞かせてもらった。

L氏 逆のことも考えられる。返還のさいは本土並みという非願が沖縄住民にある。その場合、ある方
向を感じとれるような姿勢が必要ではないか。交渉で勝とう。 というようなもの、そうすることによつ
て住民の団結も一層強固になるのではないか。

M氏 核をなくする。 とにおわせるようなニューフランスで米側にも圧力をかける。

O氏 核をなくして最善の努力をし、ギリギリの線まで討議する。そして主体的な姿勢を示すことが国民の
世論を指導することになる。

Q氏 政府内部でも綿密なプランをつくる。つまり完全な代案を用意しておくことが必要だし、世論はまた
別途の方法で考慮してもよいのではないか。

R氏 世論対策を考へるとき、自民党の態度もはがゆいものがある。今日では半場発言の如きは国民が感情
的に反感してくるが、それでは自民党としてこれに代る対応の体制がない。また沖縄対策特別委でも精切
れないというのは困る。党の小委員会などの名でなじ得る方法があるのではないか。世論指導の面からす

ると、こういう過程の中では世論の動向がつかみにくい。したがって政府の見解を出す前にもう少し党が
役割を果たす必要がある。

B氏 L氏やO氏の発言は米側に対してよい意見だと思ふ。

M氏 Q氏発言のように沖縄の世論にしたがうということも、問題が複雑に内包しているから簡単に云
えないと思ふ。

Q氏 安保条約締結のさいも沖縄の住民をそれに含める含めないでシレンマにおちいつていた。これは日本
の責任である。したがって私の言いたいのは沖縄の感情にタッチしていくことである。

N氏 社会党の沖縄問題の運動方針などは愚策だ。沖縄と七〇年安保を結びつけセネストを自ろんでいる。
Q氏 しかしそんなことは到底できない。ライシヤワも米政策の中心的存在ではない。周辺の考え方で

ある、佐藤さんの沖縄問題提起も、訪沖のさいに感動して打出したものと違うが愚策だと思ふ。周辺の考え方で

L氏 佐藤さんの国会での答弁をみると米側に対する答弁のようにも聞こえる。態度、答弁の内容など
歴代の総理答弁の中で平均して不親切だとランクされている。

B氏 国会で答弁してきた経緯からすると佐藤さんの答弁もやむを得ない。それは国会自体の体質問題だ。
F氏 では、時間の関係もあるので、このくらいで終りたい。次回は退つて連絡するが、各委員それぞれ全
故として何を討議すべきかという問題を考慮してきてもらいたい。